

うえなえ

Vol.421 2023.6

まりもちゃん 5周年記念インタビュー

2018年6月から掲載を始めた4コマ漫画「まりもちゃん」。気づけば丸5年を経過しました。職員の中に密かなファンもいるなどじわーと皆さんのココロの中に響いているようです。そこで、今回5周年記念として長らく担当している國田精神保健福祉士（PSW）からご本人にインタビューしました。

國 田PSW：誰かに作品を見てほしいと始まった掲載ですがいつの間にか5年経ってしまいました。ご自身はどう感じていますか？やっぱり長かったでしょうか？

まりもちゃん：今回、5周年と聞いたのですが、自分としては3年くらいかなーという感覚です。そんなに作品を作り続けたという実感もなく、時間の流れは怖いものだなーと感じました。私は、これまでの人生でこんなに物事が続いたことがありません。どちらかという「学校行きなさい」「ちゃんと食べなさい」「働かなければならない」といった「～しなければならぬ」ということにとらわれて学校もバイトも長続きしなかったんです。だから、へえ～、そうなんだー、位の感じです。それに、これがなくなってしまうと自分には何もなくなってしまう・・・という想いもあります。

國 田PSW：作品作りの上で、変化はありますか？何を大事にして創作されてきましたか？

まりもちゃん：連載当初からの心がけとして「説明と文字数を最小限にしよう」と思っていました。なので、どの言葉をどう選んで並べたらいいかをとても考えています。長いと理解してもらうのが難しいと思うので、ぱっと見て読んでわかるようにという読みやすさを大事にしています。

國 田PSW：4年前のインタビューでは「漫画で生活できるようになりたい」とおっしゃっていましたが現在はどうですか？

まりもちゃん：現在も「家から外に出られない」状況なので、漫画で何とかできたら・・・という考えはあります。

國 田PSW：そういいながら当委員会が書籍化をご提案していますが、それには勝手にしてくださいと反応がイマイチなのはなぜなのでしょう？

まりもちゃん：自分に興味がないからかなー。

國 田PSW：どういうことなのでしょう？

まりもちゃん：自分への興味って他者から興味を持ってもらって意識するものではないかと思うんです。「他者を通じて自分を知る」という感じです。でも、私にとってこれまで「他者から興味を持たれること」はよい意味ではなかったんです。だから、広報の方のご提案も「何やってんのー、この人達」ってなってしまうんです。

國 田PSW：最後に・・・ご自身にとって「まりもちゃん」とは？

まりもちゃん：疑問や言いたいことを伝える「手段」かな。

「まりもちゃん」という作品は、彼女が登場するキャラクターと彼女が会話しながら作り上げられているものだと思います。今回のインタビューは、彼女が率直に話してくれたことを記事にしています。作品とは違う彼女の内面や葛藤が皆さんに少しでも伝われば幸いです。今後も「まりもちゃん」の応援をよろしくお願いいたします。



5周年記念書下ろしイラスト

ウトナイ病院通信

第7回

新病院は外側が出来上がり、現在内側が作られています。来月には1階の外来部分が完成するようです。覆いが取れ、新病院の全貌が見れるかも！！と新病院をこっそり見に行くのですが、覆いはそのままです。フォトジェニックとは言い難いですが、下の写真は雨上がりに撮影した物で。来月にはもう少し完成に近づいた姿が披露できるといいのですが。

職員はどうしているかですが、先月号と同じように引っ越し準備に追われています。特に今まで紙で管理されていた資料・データなどの整理はやってもやっても終わらないと感じです。こんなに沢山の段ボールにまとめたぞと思って目の前を見ると、あまり進んでおらず、悪戦苦闘しています。今月から引越し用の段ボールも届き、どんどん慌ただしくなってきます。お盆休みには目途が付くように準備が出来ればいいのですが、はたしてそう上手く行くのでしょうか。



まだ覆いがとれていない新病院



映画「アダマン号に乗って（原題：Sur L'Adamant）を観た。フランスパリの12区、セーヌ川に浮かぶ木造船のデイケアセンターに集う人々と、その日常を追ったドキュメンタリーである。フランスのロックバンド、テレフォンの「人間爆弾」を、メンバーが乾いた声で熱唱し拍手を浴びるシーンから始まる。スタッフもメンバーも平場の関係で、互いを尊重しながらの話合いがある。幼い子どもを養子に出し、「ソーシャルワーカーと一緒に会う日が楽し

み」と語る女性、お客さんの好みのカップにコーヒーを注ぎ、閉店後、みんなでカフェの売上を計算する。絵を描き、個々がそれを説明したり、古着をリメイクしたりとユニークな活動がある。鎧戸の窓が光を調節、川にはさざ波、水鳥が泳ぎ、甲板のプランターの花が揺れる。季節が移ろい、語る人も語らない人も自分を生きている。満ちた気分が包まれた。数力所のデイケアを見学して、柳町診療所を立ち上げ、20余年の月日が流れた。芸術や自由、個を尊重するフランスの文化・精神科医療の歴史の中で育まれた特別な場所なのかもしれないが、いつか、メンバーもスタッフも自然に居ることができ、豊かな時を過ごせる場をともに創造し続けることができたらうれしい。

(M.K)



精神科医 田中 尚朗

第3回 地下鉄

私は札幌出身です(米国に移ったのは30代半ばです)。札幌で「地下鉄」というと、スーッと来て、ヒューッと加速して、スムーズに減速して次の駅に到着、というイメージがあります。この点では、ボストンの地下鉄はかなり違います。例えば、グリーンラインという路線は、単なる路面電車です。札幌の市電のようなものが都心部でトンネル区間に入ります。このトンネルができたのが1897年、北米最古といわれています。線路は曲がりくねっており、時速数キロで何度も急カーブを通過します。

レッドラインという路線にはHarvard、Kendall、Charlesという駅が連続しています。Harvardにはハーバード大学、Kendallにはマサチューセッツ工科大学(MIT)があるわけですが、この間で列車は最徐行となります。大学の実験に影響するからとか、脱線事故が起こったからとか言われていますが、いずれにしても芳しくない話です。Charlesではチャールズ川を渡るために地上に出ます。地下鉄東西線は豊平川をトンネルのまま横切りますが、ボストンではそうはいきません。この渡河部分でまたも減速します。Charlesには、1811年にできたマサチューセッツ総合病院という、全米で3番目に長い歴史を持つ病院があり、通勤者が大勢乗り降ります。

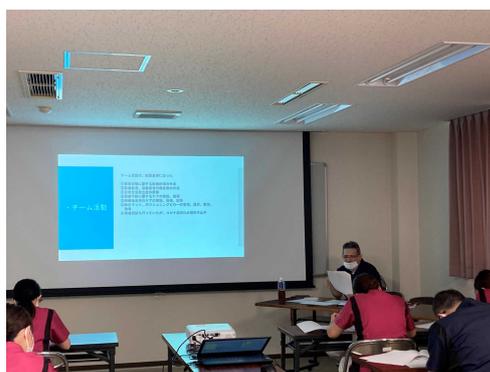
私が最初に渡米した2006年頃は、「トークン」と呼ばれる特殊なコインを窓口で購入して、それを遊園地のゲートのようなところに投入、バーを押してホームに入場していました。この前世紀の遺物のようなシステムは、まもなく磁気カードに置き換えられています。全線全区間定額なので、一度入場すると、乗換や降りるときに再度カードを出す必要はありません。降りたらそのまま改札口を出ていきます。これに慣れてしまうと、日本に帰国したときに改札口のゲートでKitacaやSapicaを出し忘れるという事態になります。



活動報告

新人教育研修

社会医療法人こぶしでは、毎年4月に過去1年の間に入職した職員を対象とした新人教育研修を開催しています。今年も植苗病院大会議室で行われ、各部署の説明や接遇についてなどを参加者は真剣に耳をかたむけていました。



湯けむりで体あたたまりあせをかく

★山内

日課です玉子求めてウロウロと

★w

お知らせ

◆ 外来休診のお知らせ ◆

社会医療法人こぶしでは8/11（金）～8/17（木）の間、外来診療が休診となります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

	8/10 木曜日	8/11 金曜日	8/12 土曜日	8/13 日曜日	8/14 月曜日	8/15 火曜日	8/16 水曜日	8/17 木曜日	8/18 金曜日
外 来	通常診療	休 診						通常診療	



ぱんだちゃん まりも



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こぶし広報委員会
苫小牧市字植苗52-2
TEL:0144-58-2314
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



花と母

< 後記 >

5月14日は「母の日」。前日から実家に帰り近所の森林公園を散歩してきました。天気も良く親子で他愛もない会話を楽しみました。母も80代半ば、こうして元気な母の日を来年も迎えたいと願うのでした。

(K.K)